

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成29年2月2日
主管学校名	愛媛大学教育学部附属特別支援学校
P T A 会長名	藤田 百香里

実施概要	主管校	愛媛大学教育学部附属特別支援学校
	交流校	愛媛大学教育学部附属幼稚園・愛媛大学教育学部附属小学校・愛媛大学附属高校
	実施活動名	交流及び共同学習、バザー参加
	実施日時	平成28年度 年間
	実施場所	愛媛大学教育学部附属幼稚園・愛媛大学教育学部附属小学校・愛媛大学附属高校・愛媛大学
	実施目的	園児や児童生徒、保護者が、特別支援学校児童生徒との交流活動を通して、同じ附属学校園として、互いに理解し、親しみの気持ちを育み、共に活動する喜びを感じる。
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校祭への参加・交流・販売活動 ○ 幼稚園児や高校生との交流及び共同学習（花の栽培活動・環境整備・買い物学習やゲームコーナーへの招待） ○ 附属幼稚園での秋祭り参加
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各附属学校園学校祭において、作業製品の展示・販売を行う。 ○ 附属幼稚園児と附属特別支援学校生徒と一緒に花の栽培活動を行い、幼稚園の環境整備を行う。 ○ 附属幼稚園児に対して花の買い物に訪れる機会を設けたり、中学部生徒が企画したゲームコーナーに招待したりする。小学部児童が、附属幼稚園で行う秋祭りに参加し、共に楽しむ場を設ける。 	
参加人数	合計 200名	

報告事項	内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 附属幼稚園、附属小学校 PTA 主催バザーでの作業製品の展示・販売 ○ 附属高校学校祭での喫茶コーナーの开店、大学えみかショップでの附属高校生と合同の販売活動 ○ 附属幼稚園児と一緒に花の栽培活動と幼稚園の環境整備 ○ 附属幼稚園児の買い物学習の場の提供とゲームコーナーへの招待 ○ 附属幼稚園での秋祭り参加
	結果	<p>○ 附属幼稚園、附属小学校 PTA 主催バザーでの作業製品の展示・販売 各学校園の保護者からの要請により、本校の生徒が作業学習で作成している製品を PTA バザーで販売した。製品の中には、幼稚園児や小学校児童の実態に合わせたコラボ製品（自由帳、ひらがな練習帳等）もあり、好評であった。コラボ製品作りや販売に関しては、何度も各学校園の保護者との打合せが行われており、本校の教育活動への理解啓発にもつながった。</p> <p style="text-align: right;">【附属小学校バザーで作業製品販売】</p>  <p>○ 附属高校学校祭での喫茶コーナーの开店、大学えみかショップでの附属高校生と合同の販売活動 本校が就労継続支援 A 型事業所の協力を得て実施している「おでカフェ（喫茶）」の出店を、附属高校の学校祭において行った。喫茶を開店するまでに、就労継続支援 A 型事業所の担当者に来ていただき練習を重ねた。当日は、附属高校の生徒と一緒に喫茶を開店させた。また、年に2回（7月、2月）、愛媛大学のキャンパス内のえみかショップにおいて「えみかバザー」を行っている。その際も、附属高校の生徒と協力して販売を行った。特別支援学校の高等部生徒にとっては、同年代の生徒とともに活動する場となっている。両校の生徒にとって、互いを理解し合う大切な機会である。また、客として各校の保護者や生徒が多く来店し、特別支援学校生徒の取組への理解につながった。</p>  <p style="text-align: center;">【附属高校での喫茶出店】</p>  <p style="text-align: center;">【エミカバザーで附属高校生と一緒に販売】</p> 

○ 附属幼稚園と一緒に花の栽培活動と幼稚園の環境整備

本校中学部の生徒が、附属幼稚園創立130周年記念に作られた園内のプロムナードを花で飾るという企画に賛同し、園児と一緒に花苗植えを行った。まず、中学部生徒がプランターへの花苗の植え方を説明し、協力してプランターに花苗を植えていった。花苗は、園芸作業班が育てたものである。生徒は手本を園児に示し、園児は説明を一生懸命に聞きながら一緒に植えていく様子が見られた。植え終わったプランターを生徒と園児が力を合わせて運ぶ姿が自然に生まれてきた。園児に感謝の言葉を掛けられた生徒は、自分が役に立った喜びを感じていた。育った花は、園児や幼稚園を訪れた保護者などの心を和ませることになる。花を介してこの活動が語られ、本校への理解や交流の意義理解につながることを願っている。



【園児と一緒に花苗植え】

○ 附属幼稚園の買い物学習の場の提供とゲームコーナーへの招待

園児の買い物学習の場として、本校の園芸作業班が協力した。園児はお金を持って、お兄さんやお姉さんが育てた花や野菜を買いに来る。店の名前は「おはなやさん」。買うものを選ぶときも、購入したときも、生徒と園児の会話や交流を大切にした。

また、中学部生徒が各学年で企画・準備したゲームコーナーに園児を招いた。保護者にも案内を出し、その様子を見ていただいた。中学部生徒は、園児が楽しんでゲームができるようにいろいろなアイデアを出し合い、景品も用意した。最初は不安げだった園児も、中学部生徒の進行に応じてゲームをするうちに笑顔になってきた。もらった景品を見せ合ったり、「楽しかったね。」と話したりする様子が見られた。中学部生徒と附属幼稚園児との交流は新しい取組であり、生徒にとっては、交流する人や活動の場の広がりがあると同時に、その活動の達成感が自信へとつながっていた。



【「おはなやさん」の開店】



【園児を招いてゲームコーナーの開催】



○ 附属幼稚園での秋祭りに参加

小学部児童が、附属幼稚園で行われる秋祭りに参加した。一緒に御輿を担いだり、祭りの曲に合わせて一緒に踊ったりして、秋祭りを楽しんだ。保護者の参加も多く、みんなで秋祭りを盛り上げた。



【附属幼稚園の秋祭りに参加】

所感

このプロジェクトをきっかけに、これまでの交流及び共同学習を見直したり、新たな共生の場の広がりを探求したりした。本校は、附属幼稚園・小学校・中学校が同じ敷地内にあることの利点を生かし、様々な交流及び共同学習を実施してきた。また、附属高校との交流及び共同学習も様々な機会を通して行ってきた。今回は、より効果的な共生の姿を求め、活動を広げることができた。1回限りの活動では、真の「共に生きる姿」の獲得はできない。これを機会に、継続した交流活動を行い、共生社会の形成を目指していきたい。

添付書類

感想・収支決算書・領収書

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成29年2月2日
学校名	愛媛大学教育学部附属特別支援学校
学年	全校

【小学部】

- 一緒に踊ったり、神輿を担いだりして楽しかったです。
- 一生懸命に神輿を担ぎました。
- みんなで楽しく祭りをしました。また、一緒に神輿を担ぎたいです。

【中学部】

- 花の植え方を、上手に説明できました。幼稚園のみんなも上手に植えることができました。
- 幼稚園の友達と一緒に花の苗を植えました。花を傷つけないように優しく持って植えました。
- みんなで一緒に花の苗を植えました。幼稚園の子どもも、一生懸命に植えていました。幼稚園が花できれいになりました。
- 花で幼稚園をきれいにする事ができてよかったです。
- ゲームコーナーでは、幼稚園の子どもに「楽しかった。」と言ってもらってうれしかったです。
- ゲームコーナーで、自分の係をしっかりと果たすことができました。
- ゲームの説明をするときに、分かりやすく話すことができました。
- 幼稚園の子どもが、景品を喜んでくれてよかったです。
- 楽しんでもらうために心を込めてゲームを考えたり、景品を作ったりしました。
- 幼稚園の子どもに楽しんでもらえるかドキドキしました。楽しそうにしてくれてうれしかったです。
- 幼稚園の子どもとまた一緒にゲームをしたいです。

【高等部】

- おでカフェに、たくさんの高校生や大人の方が来てくれました。緊張したけど、上手にオーダーをとったり、飲み物を運んだりすることができました。
- お客様がたくさん来てくれたので、とても忙しかったです。「おいしい。」と言ってもらってうれしかったです。
- 練習は大変でしたが、練習どおりにできてよかったです。みんなから、「上手にできていたよ。」と言ってもらいました。
- 附属高校の人と一緒に、おでカフェをしました。協力してできたのでよかったです。
- バザーでは、附属高校の人と一緒に、お客様に「いらっしゃいませ。」などの声を掛けました。たくさんの方が買い物に来てくれました。たくさん売れてよかったです。
- バザーやおでカフェで、附属高校の人と仲良くなることができました。これからも交流を続けていきたいです。
- お客様に、「上手に作っているね。」と作業製品をほめてもらいました。うれしかったです。
- 附属小学校のバザーで、作業製品や収穫野菜を販売しました。大きな声で宣伝をすると、たくさんの方が買い物に来てくれました。「立派な野菜ですね。」「この作業製品、丁寧に作っていますね。」など、たくさん声を掛けてもらいました。うれしかったです。

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成29年2月2日
学校名	愛媛大学教育学部附属特別支援学校

- 幼稚園児を相手に、しっかりと説明をしたり、お世話をしたりしている様子が、頼もしく感じました。こういう機会がたくさんあるとうれしいです。子どもの成長ぶりに感動しました。
- 特別支援学校のねらっている「存在価値」という点で見ると、人と関わりながら、しっかりと自分の責任を果たしている姿が見られていいと思いました。たくさんの人と関わりながら、自分の価値をしっかりと感じてほしいと願っています。
- 同じ学校の友達ばかりではなく、同じ敷地内にある附属の学校園の人たちと交流することは大変意義があると思います。学校で設定した行事をきっかけに、輪が広がってほしいです。
- 幼稚園児を楽しませようと工夫するという活動が大切だと思いました。自分たちで企画・準備したからこそ、自信をもって対応できるのだらうと思います。
- 家庭でも、幼稚園児さんと一緒に花を植えたことを話していました。楽しそうに話してくれていました。
- 愛附祭（附属高校の学校祭）では、他校でこんなに生き生きと活動している我が子を見て驚きました。家とは、違う姿が見られました。
- きちんと注文をとったり、注文どおりのものを運んだりしている様子は、立派なウエイターさんでした。これまでのご指導をありがとうございました。本人も、とても楽しかったようです。次の学校祭も楽しみにしています。
- 附属小学校のバザーでは、特別支援学校の作業製品に人気があります。本当に素晴らしい製品だと思います。
- 特別支援学校の作業班に、附属小学校独自の製品も作ってもらっています。このような関係を今後ももつことができればと思います。